



経営

-2022 年決算データからみる-

歯科診療所 経営実績分析

- ① 2022 年 経営実績とその傾向
- ② 2022 年 収入上位診療所の経営実績
- ③ 2022 年 収入ランク別経営実績
- ④ 2022 年 医療法人経営指標分析結果

株式会社 AGS コンサルティング
AGS 税理士法人



1 | 2022年 経営実績とその傾向

1 | 2022年経営実績の概要

本調査は2022年の決算書に基づいて、実数値から経営状況を把握することを目的としています。その上で、連続して調査を実施している2021年との比較を通して、改善または悪化の状況を分析しています。抽出したデータは、2022年に決算を終えた歯科診療所310件（医療法人98件、個人開業212件）の数値を抽出し、平均値を算出しています。

なお、本分析では人件費から役員報酬と専従者給与は除いています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
I 医業収入	60,498	60,946	100.7%
1.保険診療収入	49,884	50,207	100.6%
2.自由診療収入	10,309	10,395	100.8%
3.その他医業収入	305	344	112.8%
II 変動費	12,031	11,872	98.7%
1.医薬・歯科材料費	6,338	6,116	96.5%
2.外注技工料	5,693	5,756	101.1%
III 限界利益	48,467	49,074	101.3%
IV 医業費用	30,022	30,322	101.0%
1.人件費	12,783	14,304	111.9%
2.減価償却費	4,161	4,145	99.6%
3.接待交際費	624	709	113.6%
4.研究研修費	310	311	100.3%
5.保険料	941	897	95.3%
6.消耗器具備品費	923	944	102.3%
7.その他経費	10,280	9,012	87.7%
V 医業利益	18,445	18,752	101.7%

2 | 全体動向と利益の傾向

(1) 全体動向

2022年における歯科診療所の経営実績は、2021年と比較して増収増益となりました。

保険診療収入は0.6%、自由診療収入は0.8%の微増になっています。

2021年は新型コロナウイルス感染症に対する警戒心から、受診を抑制する傾向が強かったため患者数が減少しましたが、2022年は感染しても軽症など、新型コロナウイルス感染症に対する警戒感が薄れたため、来院患者数が回復したことが要因と思われます。

◆ 医業収入・費用等全体の傾向

● 医業収入

医業収入は60,946千円で、448千円（対前年比0.7%）の増加となっています。内訳としては、保険診療収入が323千円（同0.6%）、自由診療収入が86千円（同0.8%）、その他医業収入が39千円（同12.8%）の増加となりました。

● 変動費

変動費（医薬・歯科材料費・外注技工料等）は11,872千円で、159千円（対前年比△1.3%）の減少となっています。

● 医業費用

医業費用は30,322千円で、300千円（対前年比1.0%）の増加となっています。人件費（同11.9%）、研究研修費（同0.3%）、接待交際費（同13.6%）、消耗器具備品費（同2.3%）は増加し、減価償却費（同△0.4%）、保険料（同△4.7%）、その他経費（同△12.3%）は減少しています。

● 医業利益

医業利益は18,752千円で、307千円（対前年比1.7%）の増加となっています。

(2) 利益状況

限界利益、医業利益ともに増加し、限界利益が前年対比1.3%、医業利益は同1.7%増加という結果となりました。

■ 限界利益・医業利益

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
限界利益	48,467	49,074	101.3%
医業利益	18,445	18,752	101.7%

3 | 医業収入の傾向

医業収入の実績は、下記のとおりです。医業収入合計では、対前年比0.7%、保険診療収入が0.6%、自由診療収入が0.8%、その他医業収入が12.8%の増加となっています。

■ 医業収入 (単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
医業収入合計	60,498	60,946	100.7%
保険診療収入	49,884	50,207	100.6%
自由診療収入	10,309	10,395	100.8%
その他医業収入	305	344	112.8%

◆ 医業収入分析

● 医業収入

医業収入は60,946千円で、448千円の増加となりました。内訳として、保険診療収入は323千円（対前年比0.6%）、自由診療収入は86千円（同0.8%）の増加となりました。

● 医業収入に占める自由診療収入の割合

2022年は17.1%、2021年では17.0%となっており、微増となっています。

4 | 医業費用の傾向

(1) 医業費用対前年比較

医業費用の実績は、次のとおりです。

変動費は1.3%減少し、人件費は11.9%増、その他医業費用は7.1%減少しました。なお、人件費には役員報酬及び専従者給与は含まれません。それぞれ個別に集計し、参考データとして掲載しました。役員報酬の母数は98件、専従者給与の母数は212件です。

① 変動費（医薬・歯科材料費・外注技工料） (単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
変動費合計	12,031	11,872	98.7%
変動費率	19.9%	19.5%	—
医薬・歯科材料費	6,338	6,116	96.5%
外注技工料	5,693	5,756	101.1%

②人件費

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
人件費合計	12,783	14,304	111.9%
(参考) 役員報酬	6,825	7,372	108.0%
(参考) 専従者給与	3,042	3,181	104.6%

③その他医業費用

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
その他医業費用合計	17,239	16,018	92.9%
減価償却費	4,161	4,145	99.6%
接待交際費	624	709	113.6%
研究研修費	310	311	100.3%
保険料	941	897	95.3%
消耗器具備品費	923	944	102.3%
その他経費	10,280	9,012	87.7%

(2) 医業費用の傾向

●変動費

変動費は11,872千円で、159千円減少しています。

医薬・歯科材料費は222千円減少し、外注技工料は63千円増加しています。

●人件費

人件費は14,304千円で、1,521千円の増加となりました。役員報酬は2022年平均で7,372千円、前年対比8.0%の増加となっています。また、専従者給与の平均は3,181千円、前年対比で4.6%の増加となっています。

●その他医業費用

その他医業費用は16,018千円で、1,221千円の減少となりました。そのうち減価償却費が16千円減少しているため、実質的なその他医業費用は1,205千円減少しています。

2 | 2022年 収入上位診療所の経営実績

1 | 収入上位診療所の経営実績の概要

第1章で分析した歯科診療所310件（医療法人98件、個人開業212件）の決算書より、医業収入上位20%を抽出し、経営データを集計しました。対象は62件で、内訳は医療法人44件、個人開業18件となっています。なお、本分析では人件費から役員報酬と専従者給与は除いています。

■ 2022年 収入上位診療所比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
I 医業収入	125,178	128,870	102.9%
1.保険診療収入	94,502	97,224	102.9%
2.自由診療収入	29,985	30,886	103.0%
3.その他医業収入	691	760	110.0%
II 変動費	24,806	24,927	100.5%
1.医薬・歯科材料費	13,528	13,544	100.1%
2.外注技工料	11,278	11,383	110.0%
III 限界利益	100,372	103,943	103.6%
IV 医業費用	66,343	67,515	101.8%
1.人件費	31,411	33,919	108.0%
2.減価償却費	7,193	7,547	104.9%
3.接待交際費	1,296	1,520	117.3%
4.研究研修費	747	609	81.5%
5.保険料	2,769	2,653	95.8%
6.消耗器具備品費	1,799	1,932	107.4%
7.その他経費	21,128	19,335	91.5%
V 医業利益	34,029	36,428	107.0%

2 | 収入上位診療所の動向と利益の傾向

(1) 経営動向と利益状況

2022年歯科診療所の経営実績は、収入上位診療所では増収増益となりました。保険診療収入、自由診療収入も増加しています。

◆ 医業収入・費用等全体の状況

● 医業収入

医業収入は128,870千円で、3,692千円（対前年比2.9%）の増加となっています。内訳をみると、保険診療収入が2,722千円（同2.9%）、自由診療収入は901千円（同3.0%）、その他医業収入は69千円（同10.0%）の増加となりました。

● 変動費

変動費（医薬・歯科材料費・外注技工料等）は24,927千円で、121千円（対前年比0.5%）の増加となりました。

● 医業費用

変動費以外の医業費用は67,515千円で、1,172千円（対前年比1.8%）の増加となりました。研修研究費、保険料、その他経費が減少し、人件費、減価償却費、接待交際費、消耗器具備品費が増加しています。

● 医業利益

医業利益は36,428千円で、2,399千円（対前年比7.0%）の増加となりました。

(2) 利益動向

限界利益が3,571千円の増加で、医業利益が2,399千円の増加となりました。

限界利益が対前年比3.6%、医業利益は同7.0%増加という結果となりました。

■ 限界利益・医業利益

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
限界利益	100,372	103,943	103.6%
医業利益	34,029	36,428	107.0%

3 | 医業収入の傾向

収入上位診療所の医業収入の実績は下記のとおりです。医業収入合計では、対前年比2.9%の増加となっています。保険診療収入、自由診療収入とも伸びを示しています。

(1) 医業収入対前年比較

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
医業収入合計	125,178	128,870	102.9%
保険診療収入	94,502	97,224	102.9%
自由診療収入	29,985	30,886	103.0%
その他医業収入	691	760	110.0%

(2) 医業収入分析結果

● 医業収入

医業収入は128,870千円で、3,692千円（対前年比2.9%）の増加となりました。保険診療収入が2,722千円（同2.9%）、自由診療収入が901千円（同3.0%）、その他医業収入が69千円（同10.0%）増加しています。

4 | 医業費用の傾向

(1) 医業費用対前年比較

医業費用では、変動費は0.5%、人件費は8.0%増加しており、その他医業費用は3.8%減少しています。なお、人件費の取り扱いは前述の通りで、役員報酬の母数は44件、専従者給与の母数は18件となります。

① 変動費（医薬・歯科材料費・外注技工料）

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
変動費合計	24,806	24,927	100.5%
変動比率	19.8%	19.3%	—
医薬・歯科材料費	13,528	13,544	100.1%
外注技工料	11,278	11,383	100.9%

②人件費

(単位：千円)

	2021年	2022年	年対比
人件費合計	31,411	33,919	108.0%
(参考) 役員報酬	19,947	21,040	105.5%
(参考) 専従者給与	8,905	9,424	105.8%

③その他医業費用

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
その他医業費用合計	34,932	33,596	96.2%
減価償却費	7,193	7,547	104.9%
接待交際費	1,296	1,520	117.3%
研究研修費	747	609	81.5%
保険料	2,769	2,653	95.8%
消耗器具備品費	1,799	1,932	107.4%
その他経費	21,128	19,335	91.5%

(2) 医業費用分析結果

●変動費

変動費は24,927千円で、121千円（対前年比0.5%）の増加となっています。

●人件費

人件費は33,919千円で、2,508千円（対前年比8.0%）の増加、役員報酬は2022年平均で21,040千円、前年対比5.5%の増加となっています。

●その他医業費用

その他医業費用は33,596千円で、1,336千円（対前年比△3.8%）の減少となっています。

3 | 2022年 収入ランク別経営実績

1 | 収入ランク別診療所経営実績の概要

本分析で抽出したデータは、2022年に決算を終えた歯科診療所310件（医療法人98件、個人開業212件）から、医業収入が年間5千万円未満、5千万円以上1億円未満、1億円以上に分けて、分析しました。

第2章のデータ同様、人件費から役員報酬と専従者給与は除いています。

■各データのサンプル数

- 5千万円未満 150件（医療法人 19件 個人開業 131件）
- 5千万円以上1億円未満 121件（医療法人 48件 個人開業 73件）
- 1億円以上 39件（医療法人 31件 個人開業 8件）

医業収入別の個別データは、次ページ以降に掲載しました。収入ランク別に集計した主要データは、下記のとおりです。

■2022年 収入ランク別主要データ

（単位：千円）

医業収入ランク	5千万円未満 平均	5千万円以上 1億円未満 平均	1億円以上 平均
医業収入	29,733	70,897	150,127
変動費	5,583	14,314	28,521
限界利益	24,150	56,583	121,606
人件費	5,796	15,686	40,676
その他医業費用	8,500	17,930	39,878
医業利益	9,854	22,967	41,052

2 | 収入ランク別診療所経営実績分析結果

(1) 医業収入 5 千万円未満の診療所の平均データ

医業収入 5 千万円未満の歯科診療所は、減収増益となりました。医業収入は1,099千円（対前年比△3.6%）の減少、医業利益は115千円（同1.2%）の増加となりました。

医業収入は減少ですが、接待交際費以外の医業費用を節約し、利益確保に努めています。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
I 医業収入	30,832	29,733	96.4%
1.保険診療収入	27,825	27,122	97.5%
2.自由診療収入	2,858	2,464	86.2%
3.その他医業収入	149	147	98.7%
II 変動費	6,025	5,583	92.7%
1.医薬・歯科材料費	3,017	2,722	90.2%
2.外注技工料	3,008	2,861	95.1%
III 限界利益	24,807	24,150	97.4%
IV 医業費用	15,068	14,296	94.9%
1.人件費	5,944	5,796	97.5%
2.減価償却費	2,588	2,327	89.9%
3.接待交際費	354	384	108.5%
4.研究研修費	189	172	91.0%
5.保険料	195	193	99.0%
6.消耗器具備品費	311	307	98.7%
7.その他経費	5,487	5,117	93.3%
V 医業利益	9,739	9,854	101.2%

n=150件 (医療法人 19件 個人開業 131件)

(2) 医業収入 5 千万円以上 1 億円未満の診療所の平均データ

医業収入 5 千万円以上 1 億円未満の歯科診療所は増収増益となりました。

医業収入は785千円（対前年比1.1%）、医業利益は1,159千円（同5.3%）の増加となりました。

これは、変動費や医業費用の内のその他経費を節約し、増えた経費以上に金額を抑えた結果です。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
I 医業収入			
1.保険診療収入	70,112	70,897	101.1%
2.自由診療収入	59,543	60,182	101.1%
3.その他医業収入	10,255	10,323	100.7%
	314	392	124.8%
II 変動費			
1.医薬・歯科材料費	14,321	14,314	100.0%
2.外注技工料	7,455	7,139	95.8%
	6,866	7,175	104.5%
III 限界利益	55,791	56,583	101.4%
IV 医業費用			
1.人件費	33,983	33,616	98.9%
2.減価償却費	15,367	15,686	102.1%
3.接待交際費	4,709	4,972	105.6%
4.研究研修費	658	771	117.2%
5.保険料	268	354	132.1%
6.消耗器具備品費	1,103	1,040	94.3%
7.その他経費	969	1,001	103.3%
	10,909	9,792	89.8%
V 医業利益	21,808	22,967	105.3%

n=121件（医療法人 48件 個人開業 73件）

(3) 医業収入1億円以上の診療所の平均データ

医業収入1億円以上の歯科診療所は、増収増益の結果となりました。医業収入は、150,127千円（対前年比3.7%）、医業利益は41,052千円（同1.5%）の増加となりました。

■ 2022年 比較要約変動損益計算書

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
I 医業収入	144,776	150,127	103.7%
1.保険診療収入	104,764	108,047	103.1%
2.自由診療収入	39,133	41,127	105.1%
3.その他医業収入	879	953	108.4%
II 変動費	27,984	28,521	101.9%
1.医薬・歯科材料費	15,641	16,001	102.3%
2.外注技工料	12,343	12,520	101.4%
III 限界利益	116,792	121,606	104.1%
IV 医業費用	76,357	80,554	105.5%
1.人件費	37,040	40,676	109.8%
2.減価償却費	8,509	8,569	100.7%
3.接待交際費	1,557	1,767	113.5%
4.研究研修費	894	694	77.6%
5.保険料	3,316	3,166	95.5%
6.消耗器具備品費	3,023	3,288	108.8%
7.その他経費	22,018	22,394	101.7%
V 医業利益	40,435	41,052	101.5%

n=39件（医療法人 31件 個人開業 8件）

4 | 2022年 医療法人経営指標分析結果

1 | 医療法人経営指標分析結果

本章では、医療法人歯科診療所98件の貸借対照表の数値から経営指標を算出し、収益性、生産性、安全性、成長性の4つの視点で分析を行いました。第3章までの分析は、医療法人・個人開業のデータを合算しましたが、経営指標分析においては医療法人歯科診療所を対象としています。

■ 2022年 比較貸借対照表 医療法人歯科診療所平均 (単位：千円)

資産の部			負債の部		
	2021年	2022年		2021年	2022年
【流動資産】	56,402	55,392	【流動負債】	10,501	8,808
現金・預金	37,195	37,587	買掛金	1,597	1,327
医業未収金	10,069	10,223	その他	8,904	7,481
その他	9,138	7,582			
【固定資産】	36,021	42,513	【固定負債】	40,697	41,157
有形固定資産	19,343	23,701	長期借入金	30,965	31,205
無形固定資産	4,510	4,476	その他	9,732	9,952
その他資産	12,168	14,336			
			負債合計	51,198	49,965
			純資産の部		
				2021年	2022年
			【出資金】	5,856	5,856
			【前期繰越利益】	32,165	37,682
			【当期純利益】	3,204	4,402
			純資産合計	41,225	47,940
資産合計	92,423	97,905	負債・純資産合計	92,423	97,905

■ 2022年 比較損益計算書 医療法人歯科診療所平均

経営分析に必要となる主要損益数値は、次のとおりです。役員及び職員数についてはその平均値から、役員3名および、職員数7名の計10名で計算しています。

■ 医業収入

(単位：千円)

	2021年	2022年	前年対比
医業収入合計	91,164	92,152	101.1%
限界利益	72,941	74,148	101.7%
給与費計	42,232	43,829	103.8%
医業利益	4,135	4,101	99.2%
経常利益	7,268	5,645	77.7%

2 | 収益性分析結果

		2021年	2022年	差異
収益性	総資本経常利益率	7.9%	5.8%	△2.1%
	医業収入医業利益率	4.5%	4.5%	0.0%
	医業収入経常利益率	8.0%	6.1%	△1.9%
	総資本回転率	1.0回	0.9回	△0.1回

■ 指標計算式

指標名	目的	計算式
総資本経常利益率	資本を使ってどれだけ効率的に利益を上げたかを見る指標です。	経常利益 ÷ 総資本 × 100
医業収入医業利益率	医業活動における利益を医業収入で除した指標です。	医業利益 ÷ 売上高 × 100
医業収入経常利益率	医業利益に医業外損益を加えた経常利益を医業収入で除したものです。	経常利益 ÷ 医業収入 × 100
総資本回転率	資本の何倍の医業収入があるかを見る指標です。	医業収入 ÷ 総資本

◆ 収益性分析コメント

● 利益率

総資本経常利益率は5.8%で、対前年比2.1%減少し、医業収入医業利益率は4.5%で対前年対比は同率、医業収入経常利益率は6.1%で、前年に比べ1.9%減少しました。

コロナ補助金や借入金の増加の影響もあるようです。

● 総資本回転率

総資本回転率は0.9回で、対前年比0.1回減少という結果となりました。

3 | 生産性分析結果

		2021年	2022年	差異
生産性	限界利益率	80.0%	80.5%	0.5%
	1人当たり医業収入/月	760千円	768千円	8千円
	1人当たり限界利益/月	608千円	618千円	10千円
	1人当たり人件費/月	352千円	365千円	13千円
	労働分配率	57.9%	59.1%	1.2%

■ 指標計算式

指標名	目的	計算式
限界利益率	医業収入から変動費（外部購入費用）を控除した限界利益（付加価値）の医業収入に対する比率です。	$\text{限界利益} \div \text{医業収入} \times 100$
一人当たり 医業収入/月	一人当たりの医業収入の効率を見る指標です。	$(\text{医業収入} \div \text{従業員数}) \div 12 \text{ヶ月}$
一人当たり 限界利益/月	一人当たりの限界利益創出力を見る指標です。労働生産性ともいいます。	$(\text{限界利益} \div \text{従業員数}) \div 12 \text{ヶ月}$
一人当たり 人件費/月	一人当たりの総額人件費（社会保険料などの事業所負担も含めたもの）を見る指標です。	$(\text{総額人件費} \div \text{従業員数}) \div 12 \text{ヶ月}$
労働分配率	限界利益に占める人件費の割合を見る指標です。	$\text{総額人件費} \div \text{限界利益} \times 100$

◆ 生産性分析コメント

- 限界利益率………2022年は80.5%で、対前年比0.5%増加しました。
- 一人当たり医業収入/月……2022年は768千円で、対前年比8千円増加しました。
- 一人当たり限界利益/月……2022年は618千円で、対前年比10千円増加しました。
- 一人当たり人件費/月……2022年は365千円で、対前年比13千円増加しました。
- 労働分配率………2022年は59.1%で、対前年比1.2%増加しました。

4 | 安全性分析結果

		2021年	2022年	差異
安全性	流動比率	537.1%	628.9%	91.8%
	当座比率	450.1%	542.8%	92.7%
	固定比率	87.4%	88.7%	1.3%
	固定長期適合率	44.0%	47.7%	3.7%
	自己資本率	44.6%	49.0%	4.4%

■ 指標計算式

指標名	目的	計算式
流動比率	短期的な債務返済能力を見る指標です。	$\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$
当座比率	流動資産の中で特に換金性の高い当座資産による短期返済能力を見る指標です。	$\text{当座資産} \div \text{流動負債} \times 100$
固定比率	固定資産が自己資本でどれだけ調達できているかを見る指標です。	$\text{固定資産} \div \text{自己資本} \times 100$
固定長期適合率	固定資産が自己資本と固定負債でどれだけ調達できているかを見る指標です。	$\text{固定資産} \div (\text{自己資本} + \text{固定負債}) \times 100$
自己資本比率	総資産に占める自己資本（純資産）の割合を見る指標です。	$\text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100$

◆ 安全性分析コメント

2022年の指標では、流動比率は628.9%となっており、短期的な債務返済能力は高い水準にあり、また換金可能な資産による債務返済能力も高いといえます。

自己資本比率も他業種と比較して高い水準にあり、財務体質は健全と評価できます。

5 | 成長性分析結果

		2021年	2022年
成長性	医業収入増加率	6.0%	1.1%
	限界利益増加率	0.5%	1.7%
	医業利益増加率	6.7%	△0.8%
	経常利益増加率	186.4%	△22.3%

◆成長性分析コメント

2022年の経営実績は、医業収入の増加により限界利益も増加しましたが、医業利益・経常利益が減少する結果となりました。

2021年は急激に新型コロナウイルス感染症が広がった事から、受診を控える患者が多くいましたが、2022年は感染も落ち着き、患者数が回復しています。

一方、歯科医院側では引き続き感染予防対策を継続したため、関連するコストは増加傾向となりました。さらにウクライナ情勢による影響で、固定費が増加したことにより利益が減少したと思われます。

※本文中、各表の金額は表示単位未満を四捨五入しており、端数処理の関係上合計が一致しない場合があります。